

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 仙台市 】

学校名【 仙台市立秋保中学校 】

1 実践テーマ	II・IV・V
2 実施対象者 (学年・人数)	仙台市立秋保中学校 全校生徒（5クラス・78名） 保護者・地域の方（80名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（学校行事・総合的な学習の時間） ② 行事名（地域防災フェスティバル「鼓響秋保の郷」） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（地域防災フェスティバル「鼓響秋保の郷」） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備え、自分たちの命は自分たちで守るという意識を育てる。 ・災害時にどんな形で地域や周りの人々に貢献できるか体験を通して学ぶ。 ・地域の方々と共に活動しながら交流を深めることにより、地域の一員として意識を高める。 ・秋保の伝統文化をフェスティバルで披露し、地域の方々に防災意識を高める取組を行う。
5 取組内容	<p><事前打合せ> 6月9日（日） 並木集会所 ・野中・大原・並木町内会避難訓練・秋保中学校避難所運営訓練に向けての打合せ</p> <p><事前学習> 6月17日（月）6校時 学活 ・地域防災フェスティバルのねらいの確認 ・避難経路と避難方法の確認 ・班別活動の内容説明と役割分担の決定 ・学年代表生徒（感想発表）の選出</p> <p><和太鼓グループ「Atoa」と生徒のコラボ演奏準備> ・事前にコラボ演奏の楽曲をいただき、生徒有志を募り、放課後を利用して練習を実施。 ・コラボ演奏を通して、生徒の意識の中に秋保に伝わる伝統芸能を理解し、地域の方へのマナーや思いやりのあるボランティア精神を養っていく。</p>

6月30日（日） 地域防災フェスティバル「鼓響秋保の郷」

○当日の流れ

- 9：10 生徒登校 9：00 町内会災害発生
9：25 訓練開始 秋保中学校へ避難
9：30 秋保地区防災訓練開始（雨天のため体育館へ避難）

- ・開会行事
- ・生徒および地域の方と班別活動
総務班，名簿班，情報広報班，食料物資班
救護班，衛生班に分かれ活動
- ・太白消防署秋保出張所指導の下，「人工心肺蘇生法」「濃煙体験（この日は雨天のため中止）」を実施。

- 11：00 和太鼓「Atoa」公演及び秋保中学校生徒とのコラボ演奏 演奏曲目「晴れの海」




- 12：15 非常食の試食体験
地域の参加者，生徒が活動班ごとに分かれ，活動を振り返りながら，親睦を深める。
- ・閉会行事



6 主な成果

- ・和太鼓グループ「Atoa」と生徒のコラボ演奏を取り入れることにより，地域の参加者数も増えた。また，秋保中学校で，地域に伝わる伝統芸能を大切に，教育活動に取り組んでいることを理解していただいた。
- ・この太鼓演奏を機に，生徒が秋保に伝わる伝統芸能について，興味を持ち，太鼓に加え篠笛にも取り組み，学校主催の文化発表会や市民センター主催のお祭り，秋保総合支所主催の「まつりだ！秋保」にも参加した。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 秋保地区には、画家、民話の語り部、そば打ち研究会、陶芸家や篠笛奏者、民族歌舞団など多く伝統芸能を継承している方々がいる。現在、それぞれの方々に特別非常勤講師として授業に参加して、地域教育環境を整えている。これを機に、生徒に地元の伝統芸能に対して誇りをもってもらうことと、今後継承しようとする生徒が育っていけばいいと考えている。 町内会との協賛の行事であったために、事前の打合せが大切であった。特に、和太鼓演奏を入れた趣旨について共通理解することが重要であった。 
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後生徒数が減少する見込みの本校だからこそ、今後地域にいろいろなものを発信していく必要がある。発信していく内容を今後精査して、オリンピック・パラリンピックが終了しても、これからも永く引き続いていくような活動を検討していかななくてはならない。 今回の事業を発端に、生徒にマナーやおもてなしの心を育て、職場体験やキャリアインターンシップ、ボランティア活動に取り組む姿勢を養っていく必要がある。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の事業成果を基盤として、オリンピック・パラリンピックムーブメントのテーマの実現に向け、今後も取り組んでいく予定である。